図書館情報学特論Ⅲ＠京大・教育学（2011 年度後期、古賀講師）
第 5 回（2011.11.7）

政策面の検討：日本の場合

◆ 「情報ストック」ということば

＊ 博物館は「情報ストック」に該当するか？

・資料そのもののストックと、「資料に関する情報」のストック

＊ 放送はストックとは無縁か　　cf. 放送ライブラリー（テキスト巻末のコラム）

◆ さまざまな立法（表 2）

＊ どのような点が図書館（司書資格関連）科目で論じられてきたか

◆ 「社会的共通資本」をめぐって

＊ 「国家戦略」といえども、国としてどこまで直接関与すべきか？

＊ 「職業的専門家」としてどこまでできるか？

テクニカルな部分の「運営技術」と、「経営能力」との関係はどうか

◆ 次回（11/14）への宿題

以下の論文・記事（計 2 点）を一読し、感想や疑問点を次回授業の最初に述べられるようにすること。（レポートなどの提出は不要。口頭でよい。なお、授業では前者を中心的に扱う予定）

- 菅野育子. 欧米における図書館、文書館、博物館の連携：Cultural Heritage Sector としての図書館. カレントアウェアネス. 2007, (294), p. 10-16.（配布）
- 菅野育子. “米国・欧州の政策と実践から見た MLA 連携”.（テキスト『図書館・博物館・文書館の連携』第 1 部より）

特に、以下の点については、自分なりの考えをまとめておくこと。

- 「図書館・博物館の資料を教材として用いる」という米国の取り組みについて、日本ではどの程度まで可能と考えるか。あるいは、授業の中で、あるいは実体験の中でこうした取り組みを見聞きした経験があるか。
- 欧州での MLA 連携のキーワードとされる「文化遺産（cultural heritage）」について、どのようなイメージを抱くか。また、欧州での「文化遺産」（菅野論文からイメージされるもの）と、日本での「文化遺産」のイメージに、どのような違いを感じるか。

※なお、次々回（11/28）では菅野論文に取り上げられた事例をいくつか検討することとしたい。